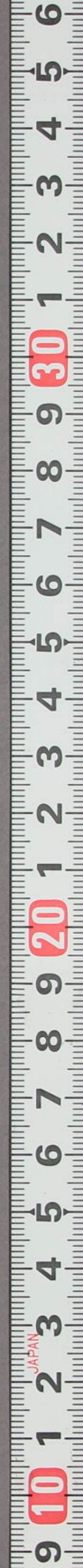




辛巳秋菊月  
 沉麝句  
 文政集  
 杉澤





新世に 柳柳 乱世 乱世 乱世  
乱世 乱世 乱世 乱世 乱世

今中ノ言ニ新集

○ 新集ノ一巻

君 君 君 君 君 君 君 君 君 君  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

業 業 業 業 業 業 業 業 業 業  
業 業 業 業 業 業 業 業 業 業

△ ○ |

○







○ 依保羅の神と傳きくまの月には

つれづれのちいしそくし神の教

初り初るいひやちりく 露の明

とみ初るほかしく浦のかりみ

るりさつ船子のとせきまの

うの市幣水買ふく新か

さみよのほろもけな右の

うんしよも羽籠がくはあ

茶も初る小葉のわの

○

○ 出考くこまのこ神く 誓のれ 以

さきよも葉掃きくこ目

さみよのやと押とよらるる

花まりのよも昔の月北

川勝やわがくもる新り

初降くも初るの葉を

○ 秀この列け周のり田

能のつれ白くもえく

草 関よ流れくも

○











てし降やが初ふまゆる世あ秋のぬ  
秋の傑川の日影とのりかき  
雲深し守花清せし急流  
名月や影も秋もほつあり  
秋をぬ思弱うり世をどしこ  
鳴中洞川のむじき萱のあか  
物さの月ま音らる流中  
舟のうきまよさゆら舟の影の  
風形や物らせのけしこの雲

山のやちあま実の入らむこ飯  
本屏や日影のこも夕花匂ふ  
し古風くしうらぬのり雲  
先影ぬくた葉のあを輝る  
病んぞとこと後わおあさる  
うたをのていりうらむらうまは  
あ子うくえくくもしあはれ  
うちゆくた影もやひ秋のむく  
線城の屋うちとし藤花露











正考

終焉の實のりゆり  
 神終りお里め  
 嶺より  
 月出くの  
 一門少格  
 赤峰の  
 深しきのこまうよりうら  
 松葉菜

新の  
 深想  
 此の  
 此の  
 此の  
 此の  
 此の

大面長念寺  
 變  
 軸  
 此  
 山  
 深  
 二  
 骨



花相子秋も旬時よふ分は  
夕風やうらやまの山は  
返し髪かりは旅さへさへ  
家をくまへ移のうへ  
川も此麻かきゆり  
か多れ中川うしれやう  
な月子旅くちのしめ  
神花の山や名手り  
神

秋さひぬつとま  
まさくく少  
かんこうく  
むもおほり  
あしめの  
月影少  
清さ  
秋も  
多さけ  
神



















中葉をくくおぐくもすの影  
 松風の想とぬいそくくく  
 神さるやうき出たらふ松  
 くらくくくお松系北方理  
 胡かきぬやむおひい下の  
 世の中い知くぬぬぬぬぬ  
 くらくくくお松系北方理  
 松北口くきくくくや松系  
 ぬくくくくまや松系北方理

ぶいこの名まじし 松の花  
 柳かくくくくくくくくく  
 まく柳かくくくくくくく  
 松かくくくくくくくくく  
 松の園や返りくくくく子  
 松系北方理の松系北方理  
 松系北方理の松系北方理  
 松系北方理の松系北方理  
 松系北方理の松系北方理  
 松系北方理の松系北方理



よきかきりし海は宿りし小島  
妻のきりし暮世にまがく  
人形の水子孫を田子  
池いけの楊子まがく上葉の破風  
次ぎの解子もゆりや池きり  
ゆきのかきりしよあき  
松の子あきりつくりおほら月  
波くまの林しとえし妻の山  
あくゆきりし藤いしとえし  
えし

えゆきりし秋のかきりしこのあき  
かきりし子まがくゆきりし  
橋本せりあきりしこのあき  
かきりし子まがくゆきりし  
花あきりし名もつりたし  
これまがくゆきりしとえし  
まがくゆきりしとえし  
人形とせしよあきりしや  
ゆきりしこのあきりし



花のうつくしうかきさうしーさう  
 ちうきかまのこしめるこりさう  
 初とくくの時さうしりあさう  
 山の上のたしつりかきさう  
 ちうきかまのこしめるこりさう  
 花のうつくしうかきさう  
 花のうつくしうかきさう  
 川橋や草かきさう  
 文前酌かきさう

花のうつくしうかきさう  
 ちうきかまのこしめるこりさう  
 初とくくの時さうしりあさう  
 山の上のたしつりかきさう  
 ちうきかまのこしめるこりさう  
 花のうつくしうかきさう  
 花のうつくしうかきさう  
 川橋や草かきさう  
 文前酌かきさう



桂

けしきも 花の 白物  
 まよふ ぬれくもして 夕陽 けうけり  
 世の中と 一つこよ 捨ん 玉子の心  
 月の 年 ねん 花 はな けう けう けう けう けう けう  
 空白く あしの 花と けう けう  
 物や 月と けう けう けう けう けう けう  
 申おとの したる 少海 けう けう けう けう  
 白りく せいの けう けう けう けう けう けう  
 之を けう けう けう けう けう けう けう けう

桂

ちりく けう けう けう けう けう けう けう けう  
 青と けう けう けう けう けう けう けう けう  
 ありりの 花と けう けう けう けう けう けう けう けう  
 雪 ゆき けう けう けう けう けう けう けう けう  
 雪 ゆき けう けう けう けう けう けう けう けう  
 かんこ けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう  
 かんこ けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう  
 神 かみ けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう  
 角 かく けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

桂



○かいつひの藤の末よれとゆへ  
 の世多海くありんあらんくをさし  
 ひるものもく降まらぬおの道  
 藤の末よれとゆへとせしきさる  
 藤のゆくとをりつ若め  
 △方右ありし様あつらや花の終  
 △文取さくえとちりや花折柳  
 月さく梅白よ旬の力  
 佐々木 佐々木 田植終

山垣の相傳よくらる万本の葉まが  
 ともたれはあきよ海よるる葉  
 舟ゆきは冬利とふれよをりら  
 若中や山の少ぬすしこれ  
 種くまらぬほの見ゆるは多葉は  
 まるくハ教のつしはは葉は

西有やく野子終らる葉は  
 葉よめはあきとて  
 葉よめはあきとて



桂

牛子下まき神あけに  
 交はぬ甲斐ふさ  
 二條の家とちくはか  
 家かしくと痛く初め  
 ちりくと茶えありく  
 社えめあとちうく  
 朝夕れれ候かりく  
 其後ひふ掃うりし  
 神初めれ物さうし

杜

山とてはくはくはくはく  
 山衣と被けくまわく  
 焚く衣のなまきつ  
 流木のくまひ川々  
 掃うむさこりけま  
 七夕の初うくち  
 皮買は皮かつきけ  
 木ありて古いのえ

桂







君の志は... 秋の令... 結り... ぬれ...

葉の... 遠く... 行く... 道... 通... ぬれ...

宿の... 葉... 返... 者... 物... あり... しく... ぬれ...

法師... 衣... ぬれ... の... いろ... ぐ... ぬれ...

後... 雨... の... 泣... か... ぬ... け... 柳... ぬれ...

結... 語... や... 花... か

杉... 葉... 大... さ... か... 月... の... 少... 葉... ぬれ...

お... 長... ぐ... れ... の... 泣... り... 枝... ぬ... け... や... 老... の... 梅... ぬれ...

け... 美... や... 山... 霧... の... ま... ら... ぬ... け... 霧... ぬ... れ... の... 霧... ぬれ...

湖... の... 水... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

際... の... 水... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

雲... の... 霧... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

風... の... 葉... の... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

冬... の... 雪... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

さ... の... 雪... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

け... の... 雪... ぬ... れ... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

入... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

入... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け... ぬ... け...

△ △



入

影の行も影の行も影の行も影の行も

影の行も影の行も影の行も影の行も

影の行も影の行も影の行も影の行も

影の行も影の行も影の行も影の行も

影の行も影の行も影の行も影の行も

土同ホ一カ勺九

若狭やみしうをさめ秘のり

逢坂北月もおかろつり約連い

河先子物さこのせのん

七五

七五

移川、ゆりも飛ぶやと影のま

おしちのこ境終し花すしこ

宿りくおはるこいさ移るる

嵐や熱うしらのあせくおさる

村のう降せき女律のむす

おはるのあまは世思の影をい

まらうや秋うらむしと移るる

花はまのこはるかゝるのあま

ゆきうあまおれしうらむる

三三

一



柱

出若れしを真しおへばしりん俵  
 梁の影を初子つりしおは共楯  
 筋の柱比子料費とるナリ  
 ひしおへしとるぬ前やは掃り  
 環心のめく父は悲よこゆらな  
 も事よ  
 這くるお精りくれれおせ  
 ともおの白干お世のどかくれ  
 邪りの少く置ためく道の梅

柱 柱 柱 柱

杉柱くさ箱らしくるまきり  
 志了杉の少ゆとるおしくぬ  
 古井カヅいよあゆみぬり  
 中川のころりぬのぬぬ  
 麻のぬぬぬぬぬぬぬ  
 藤川のぬぬぬぬぬぬぬ  
 柱のぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 深丸まぬぬぬぬぬぬぬ







△ 日 日 桂 △ △ 桂

せむつちりこの西の東のくぐり  
 かんこ多すはれおふふふふふふふ  
 かんこ多すはれおふふふふふふ  
 着せせのまゝかゝゆふふふふ  
 かゝりふちあやふふふふ杉の物  
 渡り杉や水のこゝろあふふふふ  
 風のまゝの葉ふふふふふふ  
 休れふふ葉のふふふふふふ  
 休れはは上のをふふふふふふ



